

## 那覇市総合計画審議会 第1回子ども・教育・文化専門部会の概要

当部会で審議する施策は、21～29の9本となっている。今回は、21～24までの審議を行った。

## 21 それぞれの子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる

- 施策名称で「それぞれの子どものそれぞれの時期」とあるが、それぞれの子どもは誰を指すのか。⇒障がいの有無や貧困状態等それぞれ置かれた状況が異なるためこのような表現としている。
  - 教育・保育とあるが、年代的には順序が逆ではないか。⇒文部科学省が発出している言葉の使い方である。
  - 「すべての子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる」が良いのではないか。
  - 保育所、幼稚園、認定こども園の施設の充実とは何を指すのか⇒待機児童の課題があり、施設の設置、老朽施設の改修などを含めている。
  - 若年出産・妊娠といった問題を抱えた母親に対し、負の連鎖を断ち切るためのアウトリーチを検討してもらいたい。⇒子育て世代包括支援センターで相談体制を構築したいというねらいがある。福祉の分野で子どもの貧困対策の施策がある。
  - 政策「子育てが楽しくなるまちづくり」とあるが、当施策でどの取り組みが子育てが楽しくなるねらいがあるのか⇒就学前の教育・保育に必要なサービスの量の確保と質の向上と相談体制の拡充を進めることにより、子育てに対する不安を解消することで、子育てが楽しくなるねらいがある。
  - 積極的に子育てが楽しくなる、子どもを育てることに幸せを感じることができる施策に取り組んでももらいたい。⇒行政は、課題解決に終始してしまうが、様々な課題があり課題を解決することが優先する。
  - 特別支援を要する子ども達に対しての取り組みを強化していくという視点が必要ではないか。
  - 指標で「施設の増設」が進捗の指標になっていないが適切か⇒施設が増えること自体を指標とするのではなく、保育を必要とする子どもを受け入れる体制を整えるということで、「保育所待機児童数」を指標としている。
- 就学前の量の充実に対応していることは評価しているが、待機児童解消の取り組みの両輪として施設の充実とともに、「保育士の確保」にも取り組んでももらいたい。

## 22 必要な支援が必要な子どもや保護者に届くまちをつくる

- 就学援助制度は有効な制度だと評価しているが、申請しても該当しない子ども達にも光があたる制度はないのか。
- 児童虐待を発見した場合の「つなぎ」や児童相談所以外の子どもの逃げ場「シェルター」などの文言を入れてはどうか。例えば、「関係機関と連携しながらシェルターの確保に努める」など

凡例 ■・・・委員の発言概要 □・・・部会でのまとめ暫定案

- 行政では、支援団体を把握しているか。⇒子ども食堂などを行っている事例は把握しているが、児童虐待については特殊なので、専門的なノウハウを持った団体でしか取り組めないと承知している。
- 子どもが壁にぶつかったときに、寄り添える地域の団体と連携することも必要ではないか。
- 施策名称について、表現の工夫が必要である。「支援が必要な子どもや保護者に必要な支援が届くまちをつくる」が良い。
- 事業継続に向けた財源の確保に努めるという表記よりも「こどものみらい応援プロジェクト基金」の名称を表記した方がわかりやすい。
- 指標「保育園、認定こども園等への巡回指導、訪問件数」の目標値が 231 件、254 件となっているのはどうしてなのか。⇒基準値から 10%程度の増加を目指すこととした。
- 政策や施策の名称を実感できるよう指標で「子育て支援センターの利用者の満足度」等も考えられるのではないか。

## 23 自ら学び心豊かに成長する子どもを応援するまちをつくる

- 指標「全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との差」で中学校数学を取り上げているが、その意図は何か⇒小学校においては、全国平均を上回っている、中学校が最下位となっており、特に数学において全国平均との差が大きい現状となっている。
- 「問題行動等への取り組み行う」が施策名称「自ら学び心豊かに成長する」と整合性が取れないため「心身の健やかな成長」「知・徳・体を育む」等の意味合いを持った前向きで、積極的な表現に修正できないか。
- 問題行動をする子どもに対して「レッテル貼り」ということはないか。先生方には、「レッテル貼り」ではなく、そういった子ども達が話しやすい先生になってもらいたい。
- 学校全体として人権教育の推進やいじめ防止に対して全職員で課題を共有するとともに、地域の方々を評議員に委嘱し、「チーム学校」として子ども達に寄り添っている。そういったことが、原案から読み取れないので、施策概要に記述してもらいたい。
- ICT教育の充実の意味が分かりづらいため、説明が必要ではないか。⇒電子黒板、タブレットの使い方、情報リテラシー教育、プログラミング教育がありICT教育が重要となっている。
- 指標について、施策名称である「心豊かに」「自ら学び」を実感できる指標の検討が必要でないか。具体的には、「学校生活に満足しているか」など全国学力・学習状況調査において調査されているアンケートの項目から生活質問に関する指標の抽出が検討できないか。
- 既存のデータの中で、施策を図れる指標が別にないか検討願う。

凡例 ■・・・委員の発言概要 □・・・部会でのまとめ暫定案

**24 学校施設の補修・整備をすすめ、安全安心な教育環境があるまちをつくる**

- 「老朽化した単独調理場」を小規模給食センターに再編する計画はあるのか。⇒単独調理場は16校あるが、学校施設の改築時期と合わせて再編することとしているため計画が立てにくい。
- 給食センターでのトラブルが起きた事例はあるか。⇒安全管理は徹底されているためトラブルが起きた事例はない。
- 給食センターに関する指標を検討すべきではないか。
- 地震等の災害時において学校が避難場所となるため、防災との関連性はあるか。⇒「災害時の避難拠点としての役割を果たす」と表記されている。
- 那覇市民は、避難場所の確認が徹底されているか。
- オープン教室はどうなっているか。⇒教室と廊下をワークスペースとして一体的に活用されている。以前は、教室が対面する構造だったが、近年は、教室が縦列に配置されて改善されている。